

1 全体を通しての感想・意見

【医療従事者】

<p>途中で入院の話が出ましたが、入院して枠組みを作っとうまく行ったケースの事例検討が聞いてみたいです。</p>
<p>自分と異なる職種、環境の人の視点や考えること、プランが非常に勉強になるので続けていきたい。</p>
<p>対処方法について、もう少し具体的にご指導いただけると、ありがたいと思いました。</p>
<p>今後、より実践的な内容を学び取りたいと考えております。</p>
<p>初回から第三回まで毎回参加しましたが、回を追うごとに充実してきているように思います。レクチャーという一方向的な学びの機会よりも、参加者との双方向的な交流から学ぶことや関係ができることの方が、個人的には数倍役に立つと感じます(関係者の横のつながりが生まれ、連携の土壌となり、たとえ支援者一人ひとりの知識は不十分でも、子どもを支えるネットワークとして機能するよう感じました…全員がプロフェッショナルになることを目指す必要はないと思います)。 まずは回を重ねてつながりを醸成し、その中で参加者から一定のニーズが出てきたところでレクチャーをしていただくのも一つの形ではないでしょうか。</p>
<p>事前と当日どちらのQ&Aにも答えてくださったのでありがたかったです。 グループワークの合間に講師の先生がコメントしてくれることで議論が進みやすかったです。</p>
<p>大変有意義でした。ありがとうございました。</p>
<p>今回、初めて参加させていただきました。様々な職種の方が集まり、話し合うことができるのは素晴らしいことだと思います。それぞれの立場で意見を交換することは重要であると考えます。 架空の事例であれば事前に教えていただくことで検討する内容を理解し話し合いがスムーズに行えるのではないかと思います。 この「事例検討会」は継続していくことで成熟していく会なのかなと感じました。是非、継続していただければと思います。</p>
<p>参加グループによるかもしれないが、江川先生のレクチャーや紹介されたアプリなどを踏まえて、参加グループでどのような意見交換があるのか興味がある。</p>
<p>今後の仕事に生かしていきたいです。</p>

【教育関係者】

<p>今回教えていただいたことを生かしていきたいと思います。</p>
<p>よい機会を与えてくださり、勉強になりました。次回も参加したいと考えています。</p>
<p>参加者の多さからも、学校がこのような例で苦しんでいることが分かります。今後もこのような関心の高い事例を、取り上げてほしいです。 事例の資料が手元にあると、さらに分かりやすくなると思います。 すごくよかったので、次も参加したいです。</p>
<p>同じ職場で仕事をしていても、仕事への興味、関心、意欲は人それぞれです。温度差や深さの違いをどうすることもできません。ですが、この会は、子どものメンタルヘルスに関心が高い方がたが参加されていますので、グループワークがとても充実すると感じました。会が終了した後、なんだか自分が元気になったように思いました。エネルギーを頂ける会だと思います。目標が同じ仲間がいると思えることも、心強いです。会の始まりと終わりがあっさりしていることも、私には好ましいです。</p>
<p>今年度、2回の事例検討会に参加しましたが、とても参考になる研修の機会でした。学校現場で増えつつある発達の課題をかかえた児童生徒の対応が喫緊の課題であり、今後ともこのような機会を作っていただけるとありがたいです。</p>

<p>最後の質疑応答での江川先生と杉本先生の回答ややりとりが分かりやすかったです。聞きたいことが一番分かりやすかったと思いました。事例検討は情報が少なすぎて難しいと思いました。</p>
<p>すごく楽しみにしていました。2回目は参加できなかったのですが、1回目が終わったあと、すぐに同僚にお勧めをしました。 たくさんの人に広まっていけば素敵ですが、学ぶ意欲がある人と一緒に専門性を高めていきたいです。知識が浅くても、優しく教えてくださる方々が多く大変助かりました。 これからも参加したいなと思っています。本当にありがとうございました。</p>
<p>初めての参加でしたが学びの多い時間でした。おそらく構成が私の理解に合っていたのだと思います。最初に、事例についてのグループワークをして自分の考えを伝えるとともに他者の考えを聞くことで見方・考え方が広がりました。次に、ミニレクチャーを聞くことで「怒り」のメカニズムや対処法について学び、最後の質疑応答でさらに深掘りしていただいたり、様々なQに対するAによって新たな学びがありました。 特に心に残っていることは3つです。 ・児童生徒にクールダウン→振り返り→クールダウン→振り返り→の繰り返しを促すこと ・学校としては見立て→やってみる→再見立て→やってみる→…をやってみて、うまくいかなかったら専門機関へという流れ ・トークンはかなり有効に働く 大変ありがとうございました！</p>
<p>医師や社会福祉士など、通常かかわる機会が少ない職種の方とグループワークで会話ができる貴重な機会である。自分が教育分野から見ることに慣れ、視野が狭くなりがちであることに気づいた。他職種の方が行う支援を知ること、自分が業務として行える範囲を認識することにつながった。他職種の専門とする業務を知ること、連携がスムーズにできると思う。</p>
<p>本日はありがとうございました。 テーマが自身の担任する児童の実態にぴったりで、大変参考になりました。</p>
<p>2回目に参加でしたが、良い刺激を受けました。具体的な教育現場への転換はなかなかすぐには繋がらないかもしれませんが、継続していただきたいと思います。</p>
<p>本日は貴重な研修の機会を設定していただき、ありがとうございました。もっと多くの学校現場の方にも聞いていただきたいと思いました。できるだけ伝えていきたいと思っています。</p>
<p>参考になることが多く、多様な方たちの参加があることで繋がれる実感を持つことができた。</p>
<p>また参加させていただきたいと感じました。ありがとうございました。</p>
<p>毎回大変学ばせていただいております。できれば、プレゼン資料等も配布いただきたいと思っております。</p>
<p>江川先生のスライド資料をお送りいただくことはできませんか？是非、お願いします。</p>
<p>とても有意義な会でした。ありがとうございました。</p>
<p>ミニ講演とともに、それぞれの病院や機関の説明やこんなことをしていますと言う紹介があると連携につながります。</p>
<p>テーマに対して、時間が少し短かったように感じました。もう少し、それぞれの方のお話を聞きたかったと感じました。</p>
<p>初めて参加させていただいたのですが、県内の子どものメンタルヘルスに関わる先生方のお話を伺うことができありがたかったです。</p>
<p>口コミで知り初めて参加しました。充実した研修で、次回も参加したいです。ありがとうございました。</p>

今回の事例検討会は、事例についてのグループワークで、それぞれ参加者の意見を聞くことができ、大変参考になりました。
また、江川先生をはじめ専門家の先生のミニレクチャーや Q & A で詳しく説明していただいたことから、問題行動に対する対応の仕方について示唆に富むヒントをいただきました。
大変充実した時間でした。

せっかくグループワークがあるならもう少し時間があれば良かったと思いました。

医療につながっているお子さんの受診に同行することがありますが、1人の患者に割ける時間も短く、この会のように丁寧に説明を受けることはできません。江川先生や杉本先生のおかげで、多くのお子さんの問題行動等について少しずつ理解できるようになっています。ありがとうございます。
多くの方に参加してもらえよう、声掛けしていきたいと思います。

教育事務所にも多くの相談が寄せられ、SSWの派遣依頼をいただく。子供の支援はもちろんだが、学校や教員支援を行うことも事務所の大きな役割であると感じている。今回参加させていただき、参加人数の多さに驚いている。学校や教員の中には、援助が出せないでいる、またはどう出していいいのかかわからないという方たちも多いのだと実感した。
杉本先生がおっしゃったように、当該児童にかかわる関係機関が増えることで負担も軽減される部分がある。自分自身、校長として学校に勤務しているときは、常に担任支援を中心におき、関係機関と連携してきた。管理職の役割、管理職ができることなど、ほかの管理職の経験に学びあう機会があるといいと感じている。
実現可能なことを考える機会をいただいたことに感謝している。

様々な立場の方が参加されるこの研修会では、職場にいるだけでは学べない医療の具体や行動の背景の捉え方、考え方などを学ぶ事ができました。
策がとても具体的なため、現場で活用できる点も素晴らしいです。
ぜひ、来年度は毎回参加したいと思います。本日はありがとうございました。

毎回、現在学校で対応に苦慮している事例を準備していただき、ありがとうございます。短い時間ですが、グループワークで様々な業種の方のご意見を聞けたり、ミニレクチャー等で江口先生や杉本先生の具体的なお話を伺うことができ、大変勉強になっております。私が関わっているケースでは、診断名や発達特性のみに捉われて、支援者の視野が狭くなったり対応が画一的になったりするケースが多く、診断名は同じでも一人一人が違うこと、アセスメントや背景の見立てが重要であることを学校の先生方が感じてくださっているかが心配でした。保護者にも誰かが伝えれば改善されると思っており、学校でできるであろう心理的安全性の確保には至らない場合が多いです。アセスメント、支援会議でのすり合わせ、本人の意欲が大切というお話は大変参考になりました。

今回のように架空の事例でよいので、学校でのアプローチと医療的アプローチとで学べると、とても役立つと思いました。

初めてでしたがとてもためになりました。事例検討ということで二の足を踏んでいましたが、前回も参加すれば良かったと反省しています。

事例を検討することで、自分が対応しているケースを再検討するきっかけとなる。支援者が疑似体験することで、知識が広がり、支援の幅が広がると思う。
大切な研修ですね。

【保健・福祉関係者】

ぜひまた参加させていただきたいです。

様々な分野の方のお話をお聞きできる貴重な機会となりました。今後も参加していきたいです。
ありがとうございました。

<p>事前に資料等があればもっと理解が深まった気がします。</p>
<p>普段、子どもと関わる機会はあまりないですが、子どもとの関わり方に悩む親の相談に応じることがあります。多職種で連携し、子どもの支援のみならず親を含めた家庭への支援ができるとよいと思いました。本人への対応については、家族も支援者も統一した対応をしていくことが大切であり、学校での様子や家庭での様子を丁寧に共有していく必要があると思いました。問題行動だけでなく、本人のできることや良いところに目を向けて、本人や家族が前向きになれるよう支援していくことも大切だと思います。参加してよかったです。ありがとうございました。</p>
<p>気持ちを言葉で伝えることが難しい、ADHDやASDの子どもには、認知行動療法など早期の対応を多職種で考えて、介入していくことが大切だと分かりました。</p>
<p>最後の質疑で、拘束について質問したが、医療治療の枠入れと仰っていた身体拘束も、体罰にならないのかなと思った。 機会があれば、聞いてみたい。 相談員の立場で初めて参加させていただいたが、学びが多かった。また参加させて頂きたい。 ありがとうございました。</p>
<p>日々の支援に役立つ！たくさんのお話、ありがとうございました。</p>
<p>講師の先生方から率直な考えや意見を聞かせていただき、ありがたいです。 入院治療の方法として、外部からの変化を加える視点もできるだけ早期のほうが良い、との助言、またそこに至るまでの相談方法(具体的な支援のフローチャート)も教えてもらえるとよいと思いました。</p>
<p>異なる職種で、多角的に検討ができる場として期待をしています。なかなか医師からの助言を頂ける機会が得られない中で、医療的な側面からの知識や助言を得られる場は貴重です。 事例の取り扱いは難しいことが多いのですが、現場の困り事に寄り添っていただけるような検討会を期待しています。</p>

2 グループワークについての感想

【医療従事者】

<p>自分のグループは5人のうち、1人はマイクオフ、1人は画面マイクオフだったためあまり盛り上がりませんでした。</p>
<p>専門性の高い参加者が多くて、自分の考えが斜め上なのかとか思わされた。もう少し勉強してみます。</p>
<p>いろんなたちばのかたがと、はなすことができ、貴重なじかんでした。 ちょっとききにきた、みたいなかたもいるとおもうので、そうならそう言ってくださいなど、そういうかたへのこえかけを全体からしていただけると、いいかな、とおもいました。</p>
<p>学校の先生方の着目点や考え方、プランが非常に勉強になった</p>
<p>グループワークがあることで、主体的に本会から学ぼうという意識が強まり、また多職種の方の意見を拝聴できとても勉強になります。</p>
<p>他職種の方の考え方を知り得て、参考になりました。</p>

<p>普段は接点のない地域・職種の方と、目の前のケースについて意見を交換することを通じて、医療以外の方がどのような視点から対象を理解しているのかということを知ることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。事例提示も、詳細すぎず、輪郭がわかる内容で、とても良い塩梅だったと思います。</p>
<p>所属領域が全員医療だったので、教育や福祉領域の方々とも絡みかけたです。診断がどの段階でついたのか、誰がつけたのかなど話が偏りやすいかも感じたので。</p>
<p>いろいろな領域の方から話が聞けて有意義だった。</p>
<p>短い時間の中で検討することが多すぎたと感じました。進行の方が苦勞されたのではないかと思います。しかし、教育関係者、行政の方のお話も聞けて参考になりました。グループワークは検討時間とミニレク終了した後もう一度振り返る時間があると考えが深められるのではないのでしょうか？</p>
<p>平日、時間に限りがある中での企画開催に感謝します。今後ともよろしく願います。 感想：GWは特に進行役の段取りスキルに大きく左右されると考えますが、参加グループは非常にスムーズでした。 今回は一回限りのGWでしたが、このグループに限れば、江川先生のレクチャーを踏まえた上で再度事例に対する意見交換の形で学習を進められたらより有意義だったかもしれないと感じました。</p>
<p>時間が短く、グループ内では活発な意見を出し合うところまでいけなかったようにおもいましたが、他のグループの話も聞けてよかったです。</p>

【教育関係者】

<p>グループワークでは、いろいろな視点からの意見があり、勉強になりました。</p>
<p>職業や職種の違うグループ内の協議、発表をすることで、多面的な見方を獲得することができるのと同時に、それぞれの視点の重点的に見るところが変わる事に気付いた。話さないと話からないことであった。</p>
<p>いろいろな職種の方がいて、それぞれのお立場から考えを聴かせていただいたので、すごくよかったです。ただ、いきなりだったので、話し合う情報が少なく、非常にやりにくかったです。また話し合いの進め方の画面と事案の情報の画面の両方が資料として手元にあると、よかったです。</p>
<p>時間やグループの人数も丁度いいと思いました。活発な意見交換ができ、充実しました。</p>
<p>事例とテーマに基づき、それぞれの立場からの意見交換ができた。20分程度で盛り上がりつつあるところで終わった感がある。ただし、もう少し時間を増やしたからと言って、それがいいとも思わないところもあります。グループワークの途中で杉本先生は入室され、先生の見立てを聞くことができたことはとても有効であった。</p>
<p>全員小学校の教員だった。福祉や行政の方がおられるとよかった。</p>
<p>異業種の方の話聞くのは、違う視点がもらえるので役に立ちます。</p>
<p>さまざまな業種の方とお話しする機会になった。教員側としては、医療関係の方と直接お話しする機会も少なく、嬉しく感じたが、医療関係の方は何か得るものがあったのか申し訳なく感じる。しかし、愛着障害に関して質問すると、おすすめの書籍を紹介して頂けるなど、今後の学びにより活かしていけそうな知識を得ることができて大変ありがたかった。</p>

意見を交換できることで、自分にはない視点からの意見を得ることができました。また、グループワーク後に2つのグループの報告を聞くことで、さらに新たな視点を得ることができました。自分の見方や考え方が広がり、学びが多くあったグループワークでした。

今回は教育、福祉、医療など多分野の方が集まり、事例の見立てが異なることがわかって有意義だった。今回は、4人が教員で1人が医師で、似たような視点で見えてしまいがちに思った。できれば、学ぶことが多いので多分野でのグループ編成をお願いしたい。事例がどこの小学校にもいそうで、いろいろ想像できた。しかし、出席状況と学力、周囲の子どもとのかわりが説明に入っていると、もう少し論点を絞れたのではないかと思う。

特支の知識や経験と医師からの医学的見識をうかがうことができ非常に役立つと思います。聞く側の専門用語の理解不足が露呈してしまいますが、それはそれとして勉強になります。

多職種の方々と意見交換ができて有意義でした。日頃感じていること、行っていることへの背中を押しただいたように感じました。

聴講するだけの研修とは異なり、グループワークを行うことで、多角的に考えることができました。医療、行政、学校など、いろいろな所属の方と話すことができることも魅力的であると考えます。今まで考えてもみなかったことを知ることができ、勉強になりました。ぜひ、今後もブレイクアウトルームによるグループワークを続けていただきたいです。

今日のグループワークは、とても良かったです。時間もたくさんあり、様々な職種の先生方とお話しすることができました。多くの知見を得ることができました。

様々な職種の方々の意見が聞けてとても良かったです。もっとたくさんの方から話を聞けたらいいなと思いました。

とても良い時間でした。あと10分必要でした。

グループが全員が教育関係者だったので、いろんな業種の方がいても良かったかなと思います。グループの中の話し合いで、良い方向性が見えていた。

普段あまりお話しする機会がない職種の方とも事例を通して様々な意見が交流できたことが有意義でした。

すみません、こちらの接続の問題なのか、グループワークに入れませんでした。残念でした。

それぞれの視点を出し合うことができ、有意義でした。

他の職種の方々の視点が大変参考になりました。

同業者の研修等と違い、様々な立場の方々の見方、切り口、考え方を聞くことができ、新たな気づきがあり、とても有意義な時間と感じています。

自分のグループは、特別支援担当指導主事(新潟市)、特別支援学校養護教諭、中学校教諭、小学校教諭(校長)、教育事務所 所長(自分)という構成で、各自が各自の立場で見立てや対応等を考え出し合い、多角的に重ねあうことで疑似カンファレンスを行うことができた。オンラインなのでコーディネートを担当した方がご苦労したと思うが、福祉・医療の関係者が入っているとなお深まったかもしれないと感じた。

立場による見方の違いから 自分自身の知見を広げる事ができました。

短い時間での事例検討なので仕方ないのですが、情報が少ない中で、診断名のみや問題行動の一場面のみで、怒りの背景がわからないまま対応を考えることは難しいと思いました。グループの皆様が、対応を断定的に話されることに少し驚きました。医療関係の方がいらっしまったので、医療の視点でのお話が聞けたことはとても有意義でした。

いろいろな職種の方と話せてよかったです。
いきなりのグループワークで戸惑いましたが、司会の方が上手に回して下さり助かりました。ありがとうございました。
いろいろな方とお話できてよい体験になった。自分の考えを言葉にすることで整理できた。
学校関係者が多いグループで1番若輩の自分が司会だったので、進行で焦ってしまって自分の考えをまとめる時間が少なかった。
大変申し訳ありません。当日、研修参加が遅くなり、グループワークには参加できておりませんでした。

【保健・福祉関係者】

グループワークのテーマが事例と向き合う時に必要な視点を学ぶ機会となった。限られた時間の中で有意義な意見交換ができた。また、グループの人数もオンラインだったのちょうどよかった。
限られた時間だったことを考えると、仕方がないところはあると思いましたが、私自身ケース理解に時間がかかり、グループワークに乗り遅れた感がありました。事前に資料を送って頂き、状況把握した上で参加できたよかったですと思います。3点について話し合われましたが、「どんな対応が必要か」に焦点を当てて話し合うことで、様々な機関の立場での話が聞くことができ、学びが深まったと思います。事例提供ありがとうございました。
話し合いの観点が大きく、参加者の職業も様々なので、視点が異なり短い時間のなかで話を進めるのは難しかったです。せめて事例については事前に資料が欲しかったと思いました。それを踏まえての話し合いであれば話しやすかったと思います。
実際に特別支援学級で児童と関わっている先生の意見が聞けてよかったです。グループワークをする様々な視点から考えることができ、1人に対しても多職種で関わり、知恵を出し合いながら支援をしていくことが大切だと改めて感じました。
普段関わることの少ない教育関係の方と関わることができ、新鮮な意見を聞けてよかったです。
それぞれの立場の視点から、意見を交わすことができ良かった。課題に対して発表形式になり、話し合いにはならなかったのが、少し残念だった。時間が短いので仕方がないとは思う。
学校関係者、医師等と同じグループでした。普段なかなか話せない方々とのグループワークで、貴重な体験でした。楽しかったです！
いろんな職種の方と一緒に事例を考えることができ、考え方の幅が広がりました。
時間がもう少しあると良い。グループワークが発展的になっていくとありがたい。
専門や経験の異なるメンバーで視点が異なるため、架空の事例で今回の検討内容と時間では深まらなかった。ミニレクチャー後に『どのような支援が考えられるか』であれば検討できたのではないかと。また、事例を事前配布されれば準備もできたと思う。ケースについては、経過を追って情報提供されていたが、もう少し検討してほしいところを絞り、エピソード等を入れていただくと、行動の原因や支援策が深まったのではなかったかと思う。

3 ミニレクチャーについての感想

【医療従事者】

<p>クールダウンの具体的な方策が示されて、わかりやすくよかったです。ただ対象が教育関係者なのか医療関係者なのかによって受け取り方が変わるかもしれません。後者の側からするともう少し突っ込んだ話(投薬なども含めて)が聞きたかったです。</p>
<p>大変勉強になりました。精神科の先生方の視点がわかる貴重な機会です。また、よろしく願います。</p>
<p>メカニズムや科学的根拠から分かりやすく事象を紐解いてくださり、アプローチの方法や方向性としても簡潔で分かりやすかったです。</p>
<p>ミニレクチャー、興味深く聴講しました。自身の家庭生活に応用したいです。</p>
<p>アカデミックな内容を、分かりやすく伝えてくださりまして、感謝しております。</p>
<p>グループワーク後にレクチャーという設定はとても良いと思います。 さらに求めるとすれば、参加者は教育関係者が多かったようにお見受けしましたので、レクチャーの内容と日常のズレがかなりあり、そのままそれぞれの仕事現場でのかかわりに活かしていくのは難しいのではないかと感じました。参加者の発言・体験内容を起点にして、そこから拡げていく方が、参加者自身の生きた学びにつながるように思いました。</p>
<p>具体例を挙げての講義だったのでわかりやすかったです。</p>
<p>フローチャートの活用を取り入れたいと思った。</p>
<p>『怒り』についてのお話は参考になりました。ミニレクチャーの資料が欲しいです。振り返り、対応に生かしたいと思うので、何らかの形で必要なところだけでも資料として送付していただくと助かります。</p>
<p>レクチャーにより基本的な内容を改めて確認させていただきました。</p>
<p>先生方の話はわかりやすくよかったです。</p>

【教育関係者】

<p>6秒数える、深呼吸する、フローチャートなど具体的な対応について教えていただき、参考になりました。</p>
<p>メンタルケアについて詳しい知識等があった訳ではないので、基本的なことからレクチャーしていただきありがたかった。</p>
<p>専門的な見地からお話しいただき、大変勉強になりました。お医者さんの話は、なかなか聴くことができないので、もっと聴きたかったです。</p>
<p>わかりやすく説明していただき、ありがとうございました。怒りが攻撃に変わった相手に対して、冷静に対応できるようになりたいと思います。</p>
<p>とても参考になる研修であった。事前に出された質問についてももう少し詳しく聞きたかったというのが本音です。ありがとうございました。</p>
<p>資料をいただけるとより深まった。</p>
<p>分かりやすかったです。資料があると更に良かったかな、と思います。</p>

<p>初めて聞く言葉や脳の仕組みなど、興味深い内容であった。また、アプリの紹介など、今後に活かせるうだと感じた。</p> <p>ただ、初めての知識もあったため、メモが追いつかなかった。スライドを可能な範囲で手元に欲しいです。</p> <p>一度聞いただけでは、すぐに理解し実践する事が難しいため、同じような講義等を聞きに行きたいです。そう言った紹介もして欲しいです。</p>
<p>江川先生からの専門的なレクチャーによって、脳科学からの怒りのメカニズムや怒りの背景、そして「現場の対処法」の理屈(理論)を知ることができ、理解が深まりました。短期的な対処法だけでなく、長期的な対処法(フローチャート、アンガーマネジメント)の重要性も認識することができました。</p>
<p>怒りの発現から対処、クールダウンまでを理論的にコンパクトに説明いただけ、よくわかった。クールダウンの部屋でも、何も無いと色々思い出してスイッチを押してしまうので、ボディソックスがあるとよいという話は初めて聞き、納得がいった。場所を変えるだけではなく、頭を切り替えることが大事なんだと学んだ。深呼吸も合言葉も、怒りから離れて別のことに集中する意味があると思った。ボディソックスは入手してみたい。</p>
<p>べき思考によって、怒りが生まれていると納得できました。認知面からのアプローチを試してみようと思いました。そのために、振り返りでフローチャート等を使ってみたいです。</p>
<p>スライド資料などがダウンロードできればありがたいです。</p>
<p>分かりやすかったです。杉本先生からのご指導の中にも、学校現場をよくご理解いただいている内容が聞かれ、連携の重要性を再確認いたしました。</p>
<p>グループワークと医療からの観点と照らし合わせることができた。</p> <p>具体的な方法を示していただけでよかった。</p>
<p>理論に基づいてお話しいただき、納得できました。質問について答えていただけることもとてもありがたかったです。</p>
<p>怒りのシステムについて、とても分かりやすいでした解説でした。また、事例がよく分かりましたよく分かりました。</p>
<p>専門的な観点からお話を聞いて良かったです。</p>
<p>ミニ講演とてもよいです。ありがとうございました。</p>
<p>レクチャーの資料をいただけたらうれしいです。よろしくお願いします。</p>
<p>脳の働きから、アンガーマネジメントまで、興味を持って聞くことが出来ました。ありがとうございました。</p>
<p>怒りの現場での対処法が参考になりました。</p>
<p>特性を理解した上での、アンガーマネジメントの視点をベースにした対応を学ぶことができました。</p> <p>子どもにも主体性をもたせ、フローチャートで理解を促す働きかけを、取り入れてみたいです。</p>
<p>江川先生のミニレクチャーが、「怒りの脳科学」から説明があったので興味深くお聞きし、大変よく分かりました。また、視点が幅広く、とても参考になりました。</p>
<p>専門的な内容で難しかったところもありましたが、脳内で起こっていることや怒りの仕組みなどのイメージが掴め、理解が進みました。ありがとうございました。</p>

<p>学校関係者は、どうしても対処療法(今の状況をどうにかしたい)に傾倒しがちである。脳の構造や働きなど、科学的な知識を知っていると、早い段階での対応に結び付けやすいと感じた。</p>
<p>発達障害を持つ子の特性や思考、怒りのメカニズムなど根本的な理解から、有効なアプローチや支援方法の具体を教えてくださいました。これからの時代は、いろいろな方々や機関と連携し、その子やその家庭にとっての最善策を一緒に考え実行していくことの大切さを再認識しました。しかし、まだまだ保護者にとって、医療機関は敷居が高いというか拒絶反応を示してしまいます。そこの繋ぎ役の選択肢も広げていけると良いと思いました。</p>
<p>怒りのメカニズムがよくわかりました。学校現場では、スイッチが押されてからの対応だと難しいし、本人も傷ついたり誤学習したりする経験が多くなるので、できれば、怒りを起こさない認知に近づけるようにアンダーログを使いながら軽減していけたらと思いました。授業に参加できない場合は、授業のつまらなさやわかりにくさも関係していると思うので、学びのユニバーサルデザインは大切だと思います。</p>
<p>医学的な理論に沿っていて、なるほどと思いました。大変勉強になりました。</p>
<p>具体的な対処法をたくさん教えて頂き助かりました。クールダウンのアイテム試してみたいと思いました。フローチャートも分かりやすく、早めの対応が大切だということも分かりました。ありがとうございました。</p>
<p>怒りの仕組みとそれを子どもたちに理解させる方法を具体的に教えてくださいまして感謝です。フローチャートを小学生向けに工夫してみようと思いました。</p>

【保健・福祉関係者】

<p>わかりやすく丁寧に説明いただき、なるほど！とケースに当てはまる点が多かったです。</p>
<p>怒りのメカニズムは十分理解できた。 学校で暴言や暴力が頻発している小学生の事例と同様のケースの相談が、保護者や学校から増えている。それぞれの立場もあり、連携できない場合が多い中、どのように解決に向けて取り組むのか日々悩んでいる。受診同行や相談外来等で主治医に相談する機会はあるが、医学的な見地から専門的なお話を聞きする機会は大変参考になった。</p>
<p>専門的な知識をお聞きすることができ、今後の対応の視点が広がりました。</p>
<p>とてもよい内容でした。資料が欲しいと思いました。</p>
<p>「怒り」のコントロールについて、どうして怒りという感情が起こるのか、自分はどのようなときに怒るのか、怒りの感情が起こったときにどのように対応するのかなど、自らの「怒り」について理解することが大切だと分かりました。子どもが怒りの感情から暴力や暴言に至った場合、本人と丁寧に振り返りを行うことで、少しずつ行動の変化を促していくことが必要だと思いました。</p>
<p>出来事に対する自分の捉え方や信念によって、二次感情で怒りが発生することが分かりました。とても勉強になりました。</p>
<p>イラストや図がとても分かりやすかった。お忙しいところ、資料作りをして頂き感謝します。グループワークの答え合わせになりました。</p>
<p>江川先生の画面共有での説明、杉本先生の現場ならではの説明、共にとても興味深く伺いました。ありがとうございました！</p>

大変貴重な話でした。実際に精神科医の話を書く機会はなかなかない中、事例の見立てや考え方を知ることができて、基礎力の底上げが必要だと改めて感じました。こういった研修機会でも他機関連携のネットワーク形成を図りたいです。学校の先生の方、行政の立ち位置、医療機関の診察の実際など、業務以外の場で話せる機会は本当に数少ないので、こういった時間で自分の知識や視座を高めていきたいと思っています。

医療という観点、教育、福祉の観点からのレクチャーもあとよい。

怒りを科学的に、しかも分かりやすく説明していただき、自身のためにも、地域活動のなかでも活用していきたいと思いました。

4 今後の要望等について

【医療従事者】

グループワークの際にマイクをオンにする必要があることは、もう少し事前に周知させた方がよいと思います。

リストカットなどの自傷行為、自殺願望、などへの対応、高次機関への紹介タイミング。神経性無食欲症への対応なども、ご指導いただきたいです。

解決に導かれた、ロールモデル的な事例検討を期待しております。

機会がありましたら、新潟県立精神医療センターの吉永先生のお話を伺ってみたいです。

また、療育の現場における取り組みも知りたいです。

学校現場における取り組みについても知りたいです(特に通常の学級に在籍する特別な教育的支援を要する児童生徒に、学校の中でどのような対応が組まれているのか、そこに地域事情はあるのか、どのようなときに学校として校外の支援者との連携が必要と感ずるのか、医療にどのような関与を求めているのか等・県内の医療資源に限られる中で、一次医療的関わりを関係者でどのように補い合い、機能的に連携できるかについて話し合いたいです)。

事例検討会の開催日程が決まりましたら、メール等でお知らせいただくと大変助かります。

分野を超えての他職種連携について事例を通じて考えたいです。

今回のようにグループディスカッションは、将来の連携しやすさにもつながり、続けていただきたい。

事例検討会で支援者や学校、行政が具体的にどのように動いているか、経過を確認し、その後の提案話し合いができると良いのではないかと思います。

研修冒頭、江川先生より他職種の連携というキーワードが提示されましたが、実際の児童生徒等への対応では現実のハードルがありますが、事例検討会という形式ですので様々な立場での意見・考え方に触れる機会があることが学習を深める一つの要素になると考えます。

今回のケースでは子どもが対象となっているので、子ども本人はもとより保護者や学校関係者、同級生などの意見・考え方に優先的に耳を傾ける必要性を感じます。今回の研修シリーズは、支援者として不足分を想像・想定しつつ意見交換できる貴重な機会になると感じました。

今回、GWで意見を共有下さった先生方にも感謝します。

【教育関係者】

様々なケースの子どもたちへの具体的な対応について、教えていただけるとありがたいです。
保護者が医療的なサポートを拒否している場合の事例についても知りたいです。
保護者のクレーム対応など、弁護士の先生などからのお話もお聴きしたいと思います。
職場(学校)でケース会議をするときのポイントや注意点。 過剰適応の子どもに対する支援方法。
発達に課題のある児童生徒の増加につけて、どう対応するかが学校の喫緊の課題です。個々のケースが違うという前提ではありますが、対応の仕方の見極め方のヒント、保護者への働きかけの方法、関係機関、特に医療とのつなぎをどうしたらいいかなど研修させてもらえるとありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。
グループワークで多職種連携できるとありがたい。できれば、同じ市内でグルーピングができると、顔も分かり、今後つながることができると思う。
最新の薬の情報が知りたいです。薬の効果や違いなど。
オンライン開催することで、たくさんの方が参加しやすく、さまざまな方と関わりながら学ぶ機会になり嬉しく思いました。ミニレクチャーのような内容を、受講者が振り返れるようにしていただけると、私のように知識が浅くても参加しやすいです。参加して良かったと思えたからこそ、もっと基礎的な知識をつけたいと思いました。 第二回は、参加したかったけれど、時期的に融通が効かず、出席できずでした。事例検討とは、別でミニレクチャーが事前、事後に自由に見れると嬉しいです。
高校生や大学生、専門学校生はうつ病や統合失調症など精神疾患の好発年齢で注意が必要だと聞く。どういった状態であれば受診したほうがいいのか、自殺予防のために、どのようなかかわりをするとよいかを知りたい。 今回は小学生の暴言暴力だったが、中高生の暴言にはどのように対応したらよいかを知りたい。
ICTなどを活用した入院する生徒児童の学習の保障について。特に、高校生に対する具体的な支援の可能性について学びを深めたいと考えています。
愛着障害や愛着形成不全についての対応 ゲーム依存を防ぐには(特に発達障害タイプのお子さんは切り替えが難しいと感じています)
今回のような事例に即した専門的な見解や対応を聞きたい。多機関の専門家が良い。
精神医療への繋ぎ方、そこでの治療法、どのように成長するかなど、詳しく教えていただけると、助かります。
より多くの職種の方の考えも聞きたいので、保育士、社会福祉士等の方の話も聞きたいです。
精神医療センターで行っている、具体的な治療について詳しく教えて頂きたいです
愛着障害や発達障害が疑われる子どもの不登校事例に対する対応や、それぞれの立場がそれぞれに望む対応の共通理解
最新の発達障害の情報 発達障害による問題行動への対応事例 児童生徒の問題行動に対する専門家を交えたチーム学校の取り組み事例
学校だけでなく、複数の関係機関が関わったようや事例について協議できたらと思います。

DV・虐待の事例。脳の損傷、無気力状態、子どもが将来暴力を振るう大人になるなどの仕組みや、治療方法について。
発達に課題のある児童生徒の自殺企図(リストカット、オーバードーズ) 保護者、医療機関、学校の危機感に温度差がある場合の対応。保護者<学校 医療機関<学校 …など 上記のような生徒を複数名抱える学校の教員のメンタルヘルスの維持
自傷行為(自殺企図を含む)をする児童、生徒の理解と対応 その家族の支援方法県内では増加傾向にあり、早急の対応を求められています。
愛着の再形成について、関係機関との連携について、学びたいです。
被害的意識が強く周囲からの関わりが難しい子について、保護者へのアプローチも含めて対応を知りたいです。

【保健・福祉関係者】

実際に暴力を振るってしまい、行き場がなくなったケースの予後や、18歳到達後を見据えて今できることなど取り上げていただけたらありがたいです。
現在の問題に、児童の乳幼児期からの成育歴があると面白いと思いました。また、関係機関の介入による支援(見立て、タイミング)なども学びたいと思いました。 今後も事例検討会など、児童の研修会には参加させていただきたいと思います。 丁寧な研修会、ありがとうございました！
被虐待児や愛着の課題がある児童生徒が、学校や家庭で暴言や暴力がある場合の対応などについてお聞きしたい。
医療関係の方の話を聞けるのは大変ありがたかった。グループワークをするなら観点を明確にし時間を取った方が有効な気がします。
学校関係者(先生)からのご質問が多数あり、質疑応答の時間が足りなかったように思います。30分～1時間程度、現場の先生方の悩みや疑問に答えていただく時間を設けてもよいのかなと思いました。実際に精神科の先生の話聞く機会は貴重ですし有意義だと思います。
精神障害者の家族に対する支援について。
親のメンタル不調が、子どもの健全な成長にどう影響するか？ 親の受診と子どもの受診は同じドクター、別々ドクターのメリットデメリット。 兄弟揃って皆不登校児の裏側には、何があるか？ この辺りが興味があります。お願いします。
夜の時間でも結構です。(だからこそ参加しやすいところがあります)ぜひ、今後も定期的に勉強会の継続をお願いしたいと思います。被虐待児ケアについて、トラウマ対応TICの考え方を深めたいと思っています。親の精神疾患を抱える子どもへの支援(ヤングケアラー)、自傷行為や自死念慮を口にする児童への対応、不適応傾向がみられたときの初期対応を改善するための方法(入口職員の対応のまずさ、学校批判にはしたくありませんが、やはり初期段階での信頼関係の崩れが尾を引くと思っています)など。

パーソナリティ障がい呈している児童の対応。
行動行動障害のあるお子さんの場合、家族が支援を拒否してかかえこんでいてどうにもならない状態で介入という案件が多い。家族のそうした心理の理解をしりたい。

発達障害及び、愛着障害の症例についてのレクチャー。表れる症状は似ているが、対応が異なるため、医療から見た原因、症状、治療についてお話が聞けるとありがたい。

90分のなかで医師の講義とグループワークが難しければ、2回に分けても良いので、じっくりと取り組めると良い。

医療が課題と思う事例、保健、教育関係それぞれから事例を出してもらい、その事例を加工して、多職種で検討できると良い。